



参加した保護者と教職員の皆さん

生徒用オレンジリボン作製 城南中育友会 11月の月間控え

児童虐待防止推進月間(11月)を控え、新宮市立城南中学校育友会会人権部(岩澤遊水部長、森浦展行主幹教諭)は22日夜、同校会議室で恒例となったオレンジリボンの作製を行った。同月間中に生徒が制服の左胸に取り付け、学校、家庭、地域で虐待防止への意識を高めようと6年前から実施している。

この日は保護者や教職員ら約20人が参加し、計200個を作製した。冒頭、森浦教諭が活動の趣旨などを説明。オレンジリボンキャンペーンは2004年に栃木県で子どもが虐待を受けて命を奪われた事件をきっかけに

始まったことや、児童虐待の認知件数は増加傾向にあり、和歌山県内では年間1200件以上あることを伝えた。また、オレンジリボン以外にも



作業は和気あいあいとした雰囲気で行った

ピンクリボンやブルーリボンなど、さまざまな「 Awareness リボン」についても紹介した。

参加者は、リボンのロールから8センチほどに切り出し、リボンの輪を作り、輪の交差するところに少量の接着剤を付け、安全ピンで止めた。1年ごとに育友会も教職員も多少なりともメンバーが入れ替わる中だが、協力しながら作業を進めた。保護者と教職員との協働作業は和気あいあいと進み、子どもへの思い

に共感したり、雑談に花を咲かせたり、親としての悩みに対し真剣に答えたりしていた。

この日完成したリボンは十分に乾燥させ、11月に入ってから生徒に配布する。同校ではオレンジリボンに関する授業をカリキュラム化しており、3年間を通して虐待を正しく理解し、一人一人の生命の尊さを知り、自身を大切な存在として受け止められる生徒の育成を目標としている。

(深瀬浩司)

児童虐待防止へ願い